

文献ゼミ

『建築論』 森田健一著

西洋建築思潮史

2 ウィトルウィウスの建築論

p.172-p.179

建築の概念、建築論の位置づけ

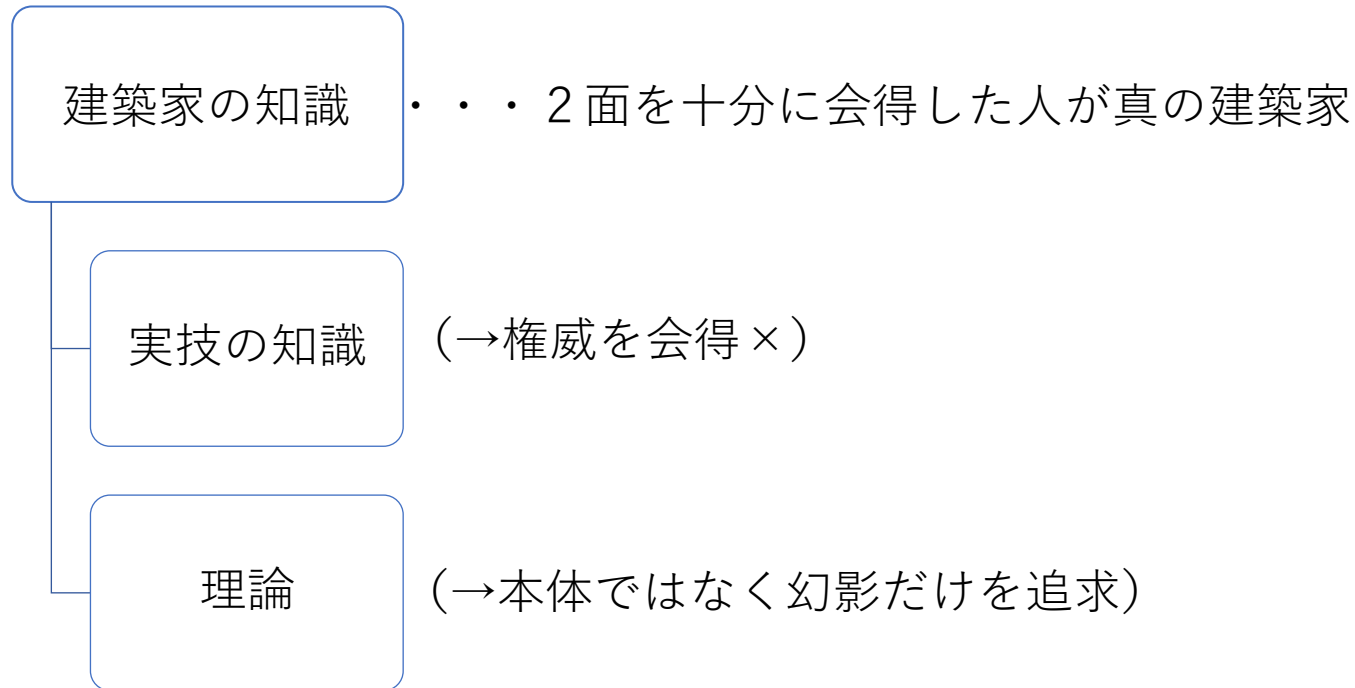
ウィトルウィウス・・・紀元前後にわたって生きたローマの建築家。

De architectura libri decem (建築に関する十巻の書)

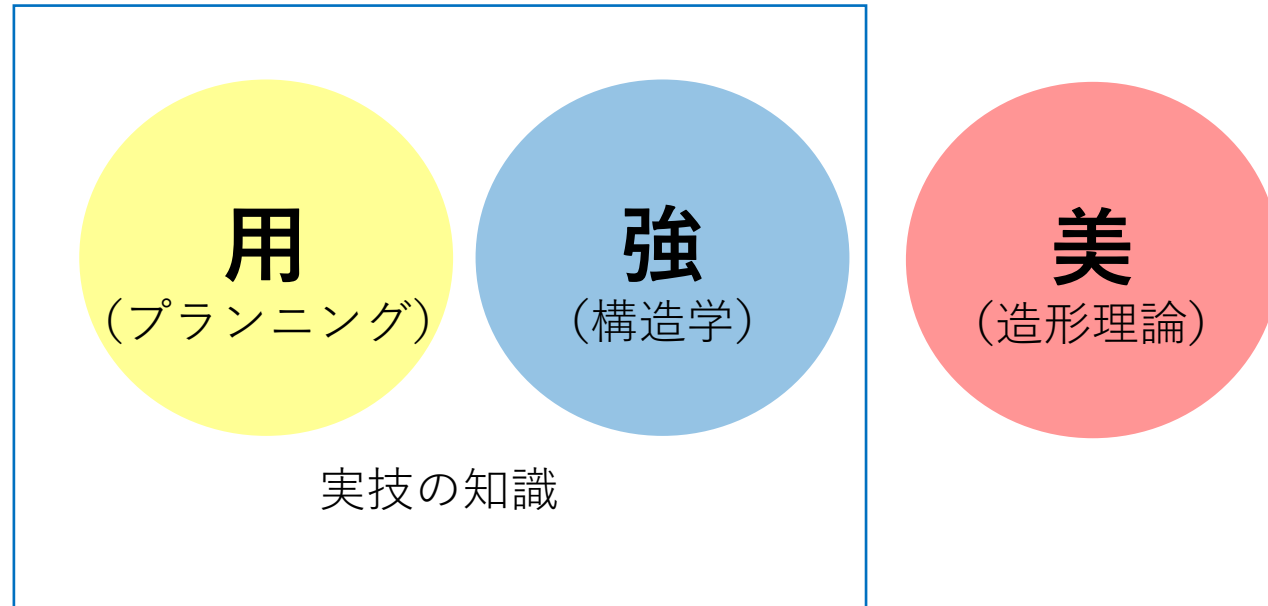
- 家を建てる術
- 日時計を造る術
- 器械を造る術

建築の概念、建築論の位置づけ

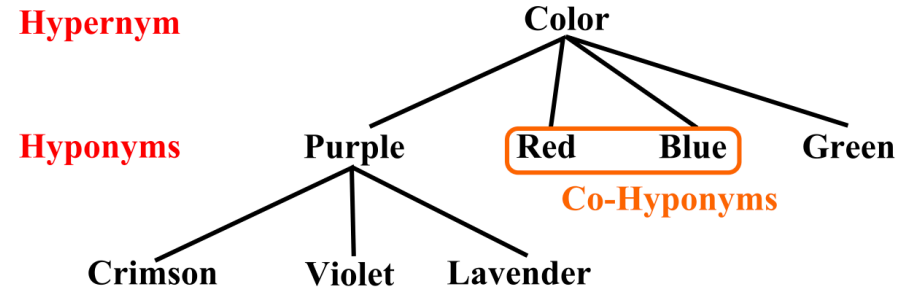
De architectura libri decem (建築に関する十巻の書)



建築の三つの立脚点



建築造形の原理



	上位概念	下位概念
内在的原理 ・量的 ・質的 建築そのものの内から 造形を規定	Ordination 秩序 (量的) Dispositio 秩序 (質的)	Symmetria 造形における核心的な秩序 Eurythmia 視覚を通じて感得する美しい形姿の原理
在外的原理 状況によって変わる ・決まり・慣習・自然	Decor 似合わしさ・相応しさ	Distributio 家政的・経済的な要因

時間軸のもった

ローマ帝政時代の建築観

固有のローマ的性格を造形の上に発揮するようになる。

- 構図の巨大化
- 左右相称の偏愛
- 正面性の重視
- 表面装飾の愛好